

「西東京糖尿病心理と医療研究会」発足に際して

朝比奈崇介

われわれはNPO法人西東京臨床糖尿病研究会とノボノルディスク社の協賛をて、糖尿病の心理的側面に関する研究、啓蒙をすることを目的として「西東京糖尿病心理と医療研究会」を発足いたしました。そしてこの度第1回目の会合を去る2月17日に約180名の医師、コメディカルを集めて東京の中央線武蔵境駅にある日本赤十字武蔵野短期大学で開催いたしました。

第1部は顧問の天理よろづ相談所病院の石井均先生に「診察室で患者さんの気持ちを知り、それを活かす医療」という演題で講演をしていただきました。この講演は自験例を中心に患者さんとのコミュニケーションを取ることの大切さを、いつもながらわかりやすい言葉にしてくださいました。

第2部は「患者さんの心理的負担感を減らす方法」と題したシンポジウムと「セルフエフィカシーを持ち上げる」と題したワークショップに分けました。

シンポジウムはハートライフ病院の山本壽一先生から、1)心理的負担を知る方法、2)心理的負担を減らす方法についてPAIDを基本にしたアキュチェックインタビューのビデオを見ながら解説をしていただきました。次に東京大学の大橋健先生から「質問からはじめるエンパワーメント」と題して、相手のための質問のあり方をテーマに皆さんとお話していただきました。多摩みなみクリニックの宮川高一先生のお話は、1型で早くに失明された若い女性と数年かけて関係を築いていったお話など、自験例を出していただいて「待つ」という医療者側の姿勢を考えさせられました。

第2部のもう一つのセッションであるワークショップは、今回この研究会で「皆で考え、討議し、成果を残していく」というこの研究会の方向性を打ち出したセッションです。京都医療セン



挨拶する朝比奈崇介氏

ターの岡崎研太郎先生と筆者をファシリテーターとして、予め応募していただいた医師・コメディカル20名に参加していただき、セルフエフィカシーを持ち上げるために何をするかについて5つのグループに分かれて3時間もの討論をいたしました。

近年、糖尿病の患者数が増すにつれ患者教育の重要性が指摘されていますが、教育の心理的側面に関しての研究が日本では遅れていると思います。この会が糖尿病教育をする人達にとって講演を聞くという一方向のものだけでなく、参加者同士で相互にディスカッションを行うという本来の研究の形を持って継続していけば幸甚です。

また、この会はNPO法人西東京臨床糖尿病研究会の中心メンバーが運営しているために同会の横の繋がりの強さが非常によく出た研究会となりました。今後「西東京」という枠を超えて全国へ広がっていければと世話人一同希望を持っています。■

あさひな たかゆき

ライフプランニングセンター所長

〒108-0073 東京都港区三田3丁目12-12

笹川記念会館11階

南平眼科内科副院長、明治学院大学健康支援センター校医